

「院内石橋ゆめ本の蔵」 から心をこめて

宇佐市院内町 岩本 紘一

「本の蔵」を介して広がる人の輪、心の輪

CONTENTS

1. 10年前から第二の人生構想を考える
2. 昭和の名著を中心としたお宝収納・展示「本の蔵」
3. 広がる人の輪・心の輪
4. 開館1年余で「野間賞奨励賞」受賞
5. 「ゆめ」一つずつ実現の本の蔵

(これからの10年)

プラス 「こんな本、あんな本」



隣町、安心院G・Tで農泊体験の中学生が、活動の一環で本の蔵にやってきました！

1. 10年前から第二の人生構想を考える

今から、ほぼ10年前の平成9年10月26日付け第50号「本のひとこと」と題した不定期発行の印刷物に、次のような見出しとリード文が載っている。

夢の私設図書館構想(1)

私の壮大な夢は、県下最大の私設図書館を石橋の里、院内町高並の実家に建てることです。今回は、その全体構想と位置図を記すことにする。

以下、駅館川上流の二つの支流が合流する地点の岩盤敷地一杯に、建設予定の私設図書館の構想図が堂々と描かれている。当時は古びた納屋兼倉庫が県道に沿って建っており、私は、買い集めた膨大な書籍を大分市の狭い自宅から帰郷のたびに、その倉庫に運び入れていた。今、振り返れば、私が正式に構想をまとめたのはこのときで、〇市教委に勤めていた55歳の頃であった。

また、次の51号では、**夢の私設図書館構想(2)**として、具体的規模や利用者の想定が書かれている。それによると、西暦2000年時点で

【図書館の名称】(仮称) 院内石橋ゆめ図書館

【図書館の規模】 8畳2間+事務室兼応接室兼書斎

【蔵書数など】 メインの文庫本8000冊を含む、約20000冊

【利用者】 院内町民(成人)300人以上 児童生徒100人以上 町外100人以上

【図書の充実】 原則として、新刊本は扱わない。カバーつきの新刊同様の古本とする。補充は寄贈や買取、大分市等への買出し(月2回程度)

【PRパンフ】 現在、随時発行中の「本のひとこと」A4版、裏表印刷、月2回程度発行

【個人蔵書】 限定1000冊別途、事務室兼務の書斎に置く

以下、52号には「夢の私設図書館構想(3)」、54号には、「私設図書館建設予定地実測図」と連続して、集中的に近未来の構想が描かれている。当時、55歳の私は、市の生涯学習行政担当者の一人として、第二の人生こそ、自己実現の最大のチャンスであることを市民の方々にお知らせする手前、自分自身としても、5年後の退職時を想定して、極めて具体的な構想・計画を持っていたことが分かる。

2. 昭和の名著を中心としたお宝収納・展示の「ゆめ本の蔵」

当初は個人図書館を想定していたが、完成後に急遽、「本の蔵」に変更したのは、それなりの理由がある。

①約40年間にわたって収集した書籍の数々は、いずれも熱い思い入れがあり、今後も大事に保存しつつ、理解ある人に読んでもらいたい ②膨大な書籍に加えて、並行して収集してきた玩具、ポスター、カレンダー、チラシ、各種カタログ、郵趣、各種生活資料など、主に昭和の中期・後期の名品を多数所蔵している ③また、ここ数年の間に、ネットを通じて落札した、今は懐かしいLPレコード、カセットテープ、V I Dテープ等を幅広く所蔵しているからである。

これらの貴重な書籍や品々をこのまま所蔵するだけでは何の意味も無いことから、公開・展示・貸し出しを決意し、名称を「院内石橋ゆめ本の蔵」としてオープンしたのは、今から約3年前の4月のことである。

参考までに、敢えて「石橋」を入れたのは、日本一の石橋群で有名な院内町にあるだけでなく、直近50Mに国登録の「橋詰水路橋」が、また、蔵の前の旧道にかかる「小稲橋」も、拡幅、かさ上げしたとは言え、元々は石橋であることによる。

ここで、紹介写真とともに、蔵の内部をご案内しましょう。

①



玄関に入るとパンダがお出迎え

②



③



④



直近50Mに、国登録水路橋

前頁の①は、玄関に入ると、大きな体であたたかく迎えてくれるパンダのぬいぐるみです。その右脇は、杉材の質感をそのまま残した当蔵自慢の備品の椅子とテーブルです。市販品ではなく、S市の森林組合から購入した製造直売品です。ここでの、時間をかけた歓談が、後のふれあい、交流につながったのです。

②は、この蔵のメインの書架で文庫本専用です。およそ1万冊の選び抜かれた貴重な文庫本です。時代小説、内外の推理小説や文芸作品、グルメ文庫、写真やイラスト中心の珍しい文庫などが、背中合わせの書架に納められている。

③は、当蔵の特色の一つである視聴覚コーナーです。ここには昔懐かしい大量のLPレコード、カセットテープ、ビデオテープに加えて、最近の話題のCDやDVDまで品揃えしている。特に、LPレコードを再生するプレーヤーは往年の名機で、BOSEと接続してあり、独特の温かみと味わいのある音を聞かせてくれる。また、中央やや右に黒く見えるのはカセット・CD専用機で、約20年前の銘機、これも奇跡の音を再生してくれる。

④は、当、蔵名にも取り入れられた石橋で「橋詰水路橋」と言い、国登録の名橋です。

下の写真は、最近、インターネットオークションで購入した希少な全集や自慢のコーナーです。⑤は、『赤彦全集』（島木赤彦）で、何と昭和4年の発行で、天金仕様に加えて、80年近く経っても崩れない堅牢な造本技術と、今ではあまり目にするのできない貴重な内容に感動しきりです。⑧は竹下夢二の詩画シリーズ全10巻、氏独特の大正ロマンあふれる挿絵と詩の全集で、当時の趣をそのまま再現した復刻版です。⑨は、昭和11年発行の『日本名文鑑賞』全集で江戸、明治、大正、昭和の名文（部分抜粋）を幅広く、もれなく集めた労作で、声を出して読みたい全集です。⑥は、珍しく最近の全集ですが、個人では滅多に購入しない『群書解題』全11巻です。タイトルの通り、古今の名著をあますところなく取り上げ、分かりやすく解説した書です。定価は5.5万のところ、ネットで5千円で落札できたが、私には結構、高額だった。

最後に、⑦は、大分県関係書コーナーです。千冊を超える、有名無名の県関係の書籍群で、図書館や古書店でも余り目にしない『豊後国志』や『緒方町誌』などが見られます。この本の蔵、一口で言えば、貴重本、希少本、珍書、絶版本などの宝庫である。

⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



3. 広がる人の輪、心の輪

(1) 子どもたちとの出会い、ふれあいから交流へ

2006年5月24日、地元北部小学校1年生との出会い、ふれあいは久しぶりに感動の連続であった。当、蔵が発行する広報紙「石橋ゆめ本の蔵」19号、

「子どもたちの成長に感動！」の見出しに続くリード文は言う。「本の蔵開館がきっかけで始まった、院内北部小学校1年生との紙芝居を仲介として始まった交流は、今月で半年を迎えた。学校関係者の支援協力はもとより、担任の先生の熱心な指導で、10人の子どもたちは、見違えるほどたくましく成長していた。」

本文では、初めての出会い以来の歩みとともに、11月6日の3回目の「こかげ出前紙芝居」の様子を3枚のカラー写真とともに掲載されている。



また、同紙26号では、「子どもたちの恩返し紙芝居」の主見出しと「歓迎・交歓・感謝・感動」の副見出しで、私に恩返しの紙芝居をするために来館した子どもたちの様子が生き生きと紹介されている。この様子は、取材に訪れたA新聞にも、次の見出しとともに大きく掲載された。「小1手づくり紙芝居披露、私設図書館長へ恩返し」と。

子どもたちは、担任の指導も相俟って、とりわけ本が大好きで、本の蔵に来るのが何より楽しみと言う。私は、来館のたびに、かねて用意していた絵本を数十冊机の上に並べて自由に読ませたあと、利用のお礼として、とっておきの絵本の読み聞かせをしたが、全員の子どもたちが目を輝かせて聞いてくれたのは言うまでもない。

(2) 一般成人との出会い、ふれあいから交流へ

当地の知人・友人を含めて、一般成人との、本の蔵が縁で出会い、ふれあいから交流へと発展した方々はかなりの数に上る。それは現職の頃より、はるかに幅広くて、多い。第二の人生を健康で生き生きと毎日を有意義に暮らせるのは、この多くの人々との交流がエネルギーとなっている。

ここでは、その全てを紹介する紙数がないので、一人だけにします。

【A氏】

A氏との出会いは、およそ2年半前の真夏の午後でした。近くの国登録の橋詰水路橋が見つからなくて当蔵の玄関に立ったA氏、猛暑のなか、かなり疲れた様子に「その橋はすぐ近くで、歩いて2～3分ですよ、良かったら帰りに寄ってください」と声かけ。

初対面の上、過密なスケジュールながら、A氏との歓談は30分以上に及んだ。数日後、達筆の毛筆書きの丁寧な絵手紙と「金石交」と書いた絵入りの巻紙が届いた。意味を調べたら「ダイヤモンドのように硬くて長続きする交わり」とあった。

その後も、今時珍しい毛筆手紙は月に2～3回のペースで届き、そのたびに、正反対の悪筆の返事を送った。こちらから、イベントの案内をすれば、自宅のある北九州から足軽く駆けつけてくれる仲になった。今まで届いた手紙は全て大事に保管し、許可を得て、来館者に見せてあげると、目を丸くして「すごい人ですね、1枚1枚が立派な作品です・・・」と一様に驚き、且つ、うらやましがられた。

その人は現職の教師で、ある夏、当、蔵の大分県コーナーで『子等を偲びて』と言う、以前、私の知人が自費出版した本に興味を示したので、詳しく説明したら、いたく感動し「是非、この本を貸してください。また、この作品の舞台である保戸島を訪れて、直接関係者に取材をして夏の平和授業の教材にしたい・・・」と。

9月初めに届いた便りによると、授業は大成功で、終戦間際に島の小学校が爆撃され、百人を超える児童や教師が亡くなった悲劇を分かりやすく説明した教材に、生徒たちは今までにない反応を示したと言う。(以下略、現在も交流が益々発展中、まさに、これぞ「金石交」)

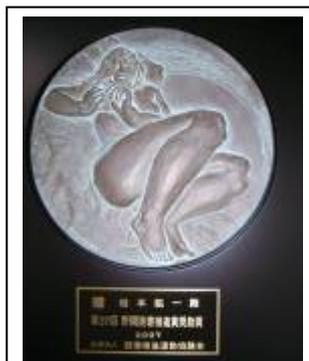
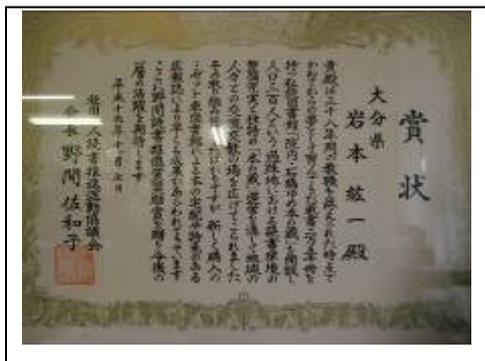
4. 開館1年余で「野間賞奨励賞」受賞！

平成19年11月7日付けで、下の写真に見るような、社団法人 読書推進運動協議会から「野間賞読書推進賞奨励賞」という名誉ある表彰状をいただいた。主催者の表彰趣旨によると、開館1年余での表彰は前例がないということで、長期的見通しに立った、ユニークな活動が評価されての「奨励賞」であった。

ここで、賞状の内容を記すと、「貴殿は38年間の教職を終えられた時点で、かねてからの夢として育ててきた蔵書2万5千を持つ私設図書館「院内石橋ゆめ本の蔵」を開設し、人口3百人という過疎地における読書環境整備充実と独特の「本の蔵」運営を通して地域の人々との交流交歓の場を広げてこられました。その取り組みは始まったばかりですが、新しく購入のミゼット車図書館による本の宅配や特色ある広報紙により早くも成果があらわれてきています。ここに野間読書推進賞奨励賞を贈り今後の一層の活躍を期待します。」

(注) 文中「3百人」は主催者側の手違いで、正しくは「5百人に満たない」

上記の表彰文に見るように、1年余でこのような名誉ある賞をいただくことは極めて異例とのことだった。当然のことながら、この表彰趣旨(奨励の賞)を十分に理解して、数年後、機会があれば「優秀賞」を目指して、日常の読書運動の推進活動を着実に積み重ねていくことが当面の私の責務であり、目標であると考えている。



5. 「ゆめ」一つずつ実現の本の蔵（これからの10年）

(1) 実現した「ゆめ」

- ① 10年来の夢「院内石橋ゆめ本の蔵」の実現
- ② 今や絶版の名車ミゼットⅡ購入と出前カー活用の実現
- ③ 地元北部小との交流実現、継続（紙芝居、学年見学来館、遠足立ち寄り等）
- ④ 生涯学習行政体験を生かした各種イベントの開催
- ⑤ 本の蔵運営を介した、地元や遠来の方々との幅広いふれあい、交流の発展
- ⑥ 地元有志との「めだか・野草の会」の結成と活動拡大
- ⑦ 公民館活動との連携と協力 *平成20年度から公民館長拝命
- ⑧ 市民図書館との連携・協力の推進 など



(2) これから10年のゆめ

- ① パソコンのホームページ作成と全国発信
- ② 全国の個人図書館調査と交流及び連携組織の立ち上げ
- ③ 高齢者と小学生の絵本などの音読の会・・・《音読の声が聞こえる町》
*「子どもと高齢者の絵本音読大会」の開催
- ④ 地元小学校+近隣の学校との連携交流・・・《読書風土の醸成》
- ⑤ 「利再来本（リサイクル本）活動」の推進による本の有効活用
- ⑥ 10年経過以後の「本の蔵」のあり方の本格的検討 など無数にある

以上の夢を一つずつ実現することで、超過疎地の活性化を図り、併せて、極端に低い院内町の読書風土を醸成しつつ、読書人口を高めていきたい。私の信条『生涯青春』！

こんな本、あんな本（図書館や書店にないような本が・・・ある！）

